



御鈴滝

みすずのたき

青森市入内の先。鳥居をくぐって坂道を下る。落差15mで、市内で大きい滝の1つ。近くには、湧き出る清水が難病や眼病治癒に効果があったといわれる「石神様」がある。

【撮影】 令和元年9月中旬 青森地区保護司会 佐々木 雅久（広報部）



発行：青森地区保護司会

青森市長島1丁目3-28

青森県更生保護会館プラザあすなろ

青森地区更生保護サポートセンター内

TEL 017-763-0763

編集：広 報 部

ラグビーワールドカップが日本で開催中、日本チームのプレーに一喜一憂しながら、活躍に喜んでいる小学生である。
ラグビーでよく言われる言葉が、ALL FOR ONE、ONE FOR ALL。私は、高校時代、陸上競技部で長距離を走っていて、ここに書き置くほどの記録はなく、他選手の背中ばかりを追っていた。七人で走る駅伝では、スピードがあり短い距離が得意な選手、持久力があり長い距離を平気で走る選手、上り坂や下り坂のうまい選手、様々な選手を駅伝コースに合わせ選手を組み合わせる。一人がブレイキ(故障や体調不良などでタイムが予想よりはるかに遅れること)すると、選手になれなかった部員や先輩たちが、あとを走る選手にその状況を知らせ、みんなでカバーする。携帯電話などない時代、さぞ気ぜわしい思いをしたこ



天内 修

青森地区保護司会
会長

随想

とだろう。試合後の反省会では、選手、部員、先輩、顧問の先生、みんなであまくいったことや失敗したことを話し合ったものでした。
私は、三十八歳のときに保護司への誘いを受けましたが、当時は仕事も忙しく、世間も知らない若造で、お断りしていました。その後、何度もお話があり、自らの勉強と思い、四十歳で拜命。すぐに保護観察対象者を担当することとなり、往来訪や家族との面接、私も緊張しているが、相手も緊張している。人と話をするのが苦手な私としては、正直つらいものがありました。このことを、分会の研修で親ほど年の離れた先輩保護司に話したところ、誰もがそんな経験をしているとのこと、先輩方の苦い経験や助言をいただき、少しホッとしたながら、その後の美味しいお酒をいただいたのを覚えている。
時がたち、更生保護関係の法律が改正されたり、新しい法律ができた。今、各地方自治体に策定をお願いしている再犯防止推進計画もしかり、その時々で常に変化している。しかし、私が思うに、周りは常に新しいものができているが、対象者やその家族、人間同士の関わり方は基本的に何も変わっていない。人それぞれが、相手を思いやる、ALL FOR ONE、ONE FOR ALL。



第69回 社会を明るくする運動

～ 犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ ～

浪打中学校

【来年度 佃中学校】

【第1部】 講演 「知・仁・勇の三徳について」 當古寺 住職 長谷部 達徳 (保護司)



社会を明るくする運動のぼりを校舎の周りに設置



更生ペンギンのホゴちゃんも来校

【第2部】 演奏 青森県警察本部音楽隊 カラーガード隊



佐藤校長へ青森保護観察所・本平所長より内閣総理大臣メッセージを伝達



挨拶する小野寺市長代理 福井福祉部次長

毎年7月は「社会を明るくする運動」強調月間。再犯防止啓発月間で、今年度の中学校との連携は、浪打中学校(校長 佐藤明彦)で7月11日、開催されました。全校生徒数235名、教職員24名、ほか保護者・地域関係者・保護司を含め約60名が参加。



お礼の言葉 生徒会長



保護者と保護司スタッフのみなさん



保護司のみなさん

「社会を明るくする運動」に参加して 【生徒の感想文】

全校から189通が寄せられました

1年2組23番 備吉崎 翔

第1部では、三徳について長谷部達徳さんがクイズを入れながら、分かりやすくほくたちに「知・仁・勇」について教えてくれました。明るい社会にするために周りの人をえんちょうし、なおかつ自分の個性を出していくことを意識して生きていきたいです。第2部の演奏では、大迫力の合奏とすてきな歌声、ダンスには、おもしろかったです。そしてこの日のために練習してきてくれたのだと思います。

1年3組1番 備浅井 詩

講演では、お互いに社会で生きていくためには、長谷部さんの言っていた「知・仁・勇」の全てを頭の中に入れて生活することが大切だと思った。私は「勇」の「チャレンジ」が特に心に残っています。社会では、いろいろなことにチャレンジすることが大切だし、相手のことを考えることも大切だと思いました。また、第2部の演奏で私の知っている歌がたくさんあって楽しかったです。「U.S.A.」では踊っている人がすごいと思いました。聞いてる人は盛り上がりすぎて私もすごく笑顔になれたので良かったです。カラーガードの人たちはすごく笑顔で見ている姿も心がワクワクするような感じでした。お菓子が4人とも食べてあげました。とても貴重な経験になったと思います。

2年1組2番 備浅利 さくら

今回の「社会を明るくする運動」では、めだに聞く機会のない住職さんの話や、警察の方の演奏を聞くことができました。「知・仁・勇」も大事に、お互いを尊重しながら生きようと思いました。警察の方が聞かせてくれた演奏では、福山さんの歌をうたった、背の高い人がとても歌がうまい、聞き惚れてしまいました。カラーガードや演奏している楽器の中に私が経験したものもあり、思いがけずながら見守られたが、カラーガードの旗の持ちかたが軽やかで、下、と見ていた気持ちになりました。今日は本当にありがとうございました。

2年2組2番 備安野 拓登

今回いろいろな人の話を聞いてみて、お互いに社会で生きていくためには、互いに助け合うことが重要なんだと分かりました。また、他人のことを考える行動ができれば誰かの役に立ち、社会のためになっていけたと思います。先生の言っていた「知・仁・勇」の三つを心に刻み生涯忘れることのないようにしたいです。もうすぐ14歳になるので、今の14歳を大事にしたいです。音楽隊の演奏がとても素晴らしくて、歌声やダンスもとても素晴らしくて心に響きました。

3年1組16番 備横山 彩雪

まず「社会を明るくする運動」が今年で69回目であることと驚きました。このような活動に参加できたことにうれしく思います。これからは、もっとこの活動が広がってほしいと思います。長谷部さんの話を聞いて、人の大切さ、命の大切さがかかりました。私はお金が大切だと思いました。命が一番で、そして生きていく上で、知・仁・勇の三徳も大切だ、生きていこうと思いました。本当にありがとうございました。そして、音楽隊のみなさんの演奏はとても素晴らしく、カラーガードのみなさんはいつも笑顔で私達もとても楽しめました。モノマネもダンスもおもしろかったです。最後に、この会で学んだことを、これからの学校生活に役立てたいと思います。

3年3組8番 備齋藤 萌

住職の長谷部さんの話を聞いて、知・仁・勇の三つについて教えていただきました。クイズも面白く、住職の仕事は楽しそうだと分かりました。この3つの意味から、思いやりを持ってお互いを尊重し合えるから平等に接するということも学びました。「勇」という字には「心」という言葉が隠れていると、私たちが偉い人だと思って、人と接するときは9割は思っている、それからの生活が知・仁・勇の三つの中で意識して自分らしく生活していきたいです。演奏会では、私たちの知っている歌がなくて、とてもワクワクしました。また、演奏も迫力があったし、踊っている人もとてもいい感じで見ることができました。ダンスや歌を見ることができ、とても盛り上がりました。今日は、お忙しい中、この日は講話や演奏会をしていただき、本当にありがとうございました。

工夫いっぱい 分会だより

第1分会



小湊中学校ミニ集会に参加して

【山本 光蔵】

第69回「社会を明るくする運動」の一環として、第1分会では、令和元年7月17日、平内町立小湊中学校において「ミニ集会」を開催いたしました。



保護司1年生の私は、初めての参加でしたが、先輩保護司の皆様と共にポスター・リーフレット等を活用した広報活動、第1分会の山形民雄氏による講話等を実施しましたが、小湊中学

第2分会



筒井中学校での「坊主のひとりごと」ブツブツ仏

【鬼柳 久美子】

校の校長先生始め教職員の皆様への運動に対するご理解・ご協力に感心いたしました。また、講話においては、「万引き事犯の悪性」等について説明。ビデオ「2つの道」を上演いたしました。生徒の皆様の真剣な受講態度を見て、平素の非行防止等に対する指導が浸透していることに感激いたしました。

令和元年7月26日(金)筒井中学校で、「社会を明るくする運動」青森第2分会ミニ集会在開催されました。参加者は、筒井中学校1〜3年生のJUMPチ

ーム21名と教頭先生、2分会の保護司8名でした。参加者全員、1人ずつ自己紹介の後、関一宇保護司(常福院住職)の講話がありました。タイトルは「坊主のひとりごと(ブツブツ仏)」みなさん、食い入るように聞いていました。



意見交換では、犯罪ではないが、大きい音を出して近隣住民から苦情があったことや、集団でふざけあつて歩いていて注意されたことなど、中学生らしい意見がありました。お昼も近くなったので、おいしい恵比須屋さんのお弁当を食べて終了しました。

また2分会では、数年前から、任期満了で退任した保護司さんに、



第3分会



甲田中で、少年鑑別所の教官による講演

【白鳥 きよみ】

長年のご功績に敬意を表し、慰労祝賀会を開催しています。平成31年2月28日に退任された佐藤武治さんを囲んで、思い出話や失敗談など、楽しいひとときでした。(H31. 3. 30 ラ・プラス青い森) まだまだ保護司やってほしかった・・・(涙)



社明運動ミニ集会是、毎年甲田中学校で開催。7月17日(水)午後、昨年に引き続き青森少年鑑別所にお願ひし、主席専門官・小澤 豊氏を講師に迎え「きみの思いの伝え方?」と題し講演会を開催しました。夏休みを前に、生徒たちが非行に巻き込まれないよう、生徒たちの寸劇

森 まよい 昭和9年生まれのホームページより

参加されました皆様お疲れ様でした。今後も更なるご活躍を...

福島県いわき市出身
参議院議員(当選3回)
東北大卒(弁護士)



出典:参議院

を交えながらの講演に、みな真剣に聴きつけていました。

参加者は生徒350名、教職員29名、保護者の皆さん地元町会長さん、保護司11名と多数の方々が参加してくださいました。また、啓発グッズのホゴちゃん



ンクリアファイル、チラシ、ポケットティッシュを参加者の皆さん全員に配布しました。後日、8月に満期退任になる2名の保護司さんの送別会を兼ねて社明運動の反省会を開き、いつもより思い出深い夜を過ごしました。



句を見るにつけ、この子供たちにいじめも虐待もない環境を提



供した愛心保育園の園児やヒップホップダンスのPKJパワフルキッズが行われました。また稲穂をバツクにお面をかかした子供供たちの俳

第4分会



かかしロードでの社明広報活動

【七戸 俊逸】

二百十日にあたる9月1日恒例の第13回かかしロード280のオープンセレモニーが、油川市民センターで行われたのに合わせて、第4分会有志で啓発活動を行いました。本年は吉幾三大型かかしを筆頭に550体のかかしが設置され、このお祭りも年々賑わいを増しております。和太鼓を演奏

うとの想いを新たにいたしました。遡ること8月17日には、新城

まつりも行われ、この場にも社明運動の啓発活動が行われました。

旧聞になりますが第四分会新年会、ベテラン保護司たちの困難事例の披瀝合戦が大いに盛り上がりまして、新人には大変有意義でした。



第5分会



坐禅会を終えて

【阿部 哲】

第5分会(分会長鎌田喜代志)では、毎年「社会を明るくする運動」学校連携事業として、青森県立浪岡高等学校(校長神卓也)の教員生徒とともに座禅会を開催している。14回を数えた今年の座禅会は、

去る7月24日、保護司でもある曹洞宗元光寺齋藤光司住職のご

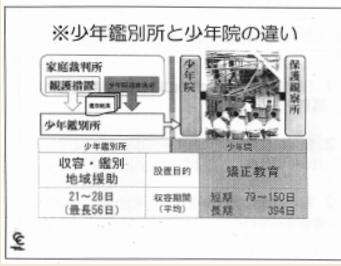
協力のもと、先生と生徒17名が参加し、聖僧を務めた副住職から座禅の作法を教わった後、早々本堂において座蒲(ざふ)に座り、半眼の姿勢を保ち、心を落ち着かせていた。警策(きょうさく)を初めて受け、吃驚(びっくり)しながらも、最後に座蒲を整え、座禅体験を終えた。

その後、朝食会に移り、住職より修行僧の食事並びに更生保護について教わった。参加した柔道部1年生の3人からは、「寺の厳しさをはじめ、いつもと違う体験ができた」(倉田君)、「ゴマ塩のおかゆがおいしい。最後



まで座っていられた。」(西野君)「初めてお寺に入り内装のきれいに驚いた。お尻が痛かったけど良い体験になった」(佐々木君)と、この体験を試合に生かしていきたいと感想を語っていた。

プロジェクトを使いながら
講義する永井統括専門官



野辺地区の担当で、六ヶ所村尾駈コミュニティセンターで開催されました。研修Ⅰ「講義」では、「少年鑑別所の処遇について」と題して青森少年鑑別所 統括専門官 永井浩明氏が講師として発表、研修Ⅱ公演「では、日本チャーター協会会長・日本チャーター奏者及び教育者の内藤敏子氏を迎え「音が命ある全てのものに与える影響」の発表と演奏がありました。この研修会は、保護司活動の充実に役立たせるのが目的で、参加保護司75名でした。

令和元年度（担当/野辺地区） 県央ブロック保護司研修会

青森地区保護司会 野辺地区保護司会 むつ下北地区保護司会

巻市民交響楽団創立40周年を記念する復興支援のボランティア活動として地元オーケストラと共演するなど多方面で活躍しています。



平成21年青森県更生保護大会で公演した後、野辺地区の社会を明るくする運動に25年、28年、30年と参加され「何をするときでも、大切なことは、どれだけ心を込めてしたか」と小学生に言葉を贈られていました。また、平成29年7月には、石

社会を明るくする運動 青森地区更生保護女性会



函館地区保護司会 函館東地区更生保護女性会 「TAKiOのソーラン節」

「広げよう非行を防ぐ地域の輪」「ふれあいと対話が築く明るく社会」のテーマの下、第38回みんなのつどいが、7月22日(月)リンクステーションホール青森で開催されました。神和子実行委員長(青森地区更生保護女性会会長)挨拶の後、小野寺青森市長

(代理・館山福祉部長)、本平青森保護観察所長、長谷川市議会議長より祝辞をいただき、益金贈呈、天内青森地区保護司会長の謝辞に続き、来賓の紹介がありました。各地区更生保護女性会や賛助会員の舞踊・唄などが披露され、今年も青函交流で函館地区保護司会・函館地区東更生保護女性会からの参加もありました。



令和元年9月1日付

新任保護司紹介

「保護司の委嘱をうけて」



白取 めぐみ

第1分会
青森市平新田

この度、保護司の委嘱を受けて身の引き締まる思いでございます。

子供たちの義務教育の卒業を機に様々なボランティア活動に携わりながら20年余りになります。都度貴重な体験をさせていただき自身がステップアップしてきたように思います。

今でも心に残る若い思い出があります。子供の学校の委員会活動(校外委員)に所属していた時です。その頃に問題行動を起こす一男子生徒がおりました。話を聞いていくうちに問題は家庭にあるということがわかってきました。が、どうすることもできず毎朝のおにぎりと只々話を聞くことで教室へ見送っていました。男子は専門学校への進学を希望していたのを知り、祖母が入学金の工面をしてくれたのだそうです。しかし授業についていけず中途退学したとずっと後になり知りまされた。偶然出会い、言葉をかけてくれたのです。
あの時もっと何かしてあげられなかったらどうかと悔やまれてなりません。あたたかな環境で育っていたなら彼の人生は違



安田 由美子

第1分会
青森市佃

つていたのに違いありません。それ以来「更生について考えるようになりました。私の現在の環境の中で出来るのが誰かの役に立つのであればと考えております。今後は研鑽を積み、保護司として冷静な判断行動ができるよう、講習会に参加して参りたいと思っております。また、先輩保護司の皆様からアドバイスをいただきながら勉強してまいります。どうぞよろしくお願い致します。

私は5年前より女性と女兒のための支援ボランティア団体に所属しております。その中の委員の紹介で更生保護のお話をいただきました。世界における女性と女兒の貧困、教育人権など不平等な現実を知れば知るほど心が締め付けられ何かもつとできることがないかと日々勉強しているところです。
2015年9月に国連が採択した持続可能な開発目標の達成に向けての取り組みに賛同し平和な社会、誰もが法によって守られる社会にならなければと考えています。しかし国内に目を向けるとテレビのニュースでは



柿崎 由見子

第3分会
青森市大野

毎日のように悲惨な事件を目にします。犯罪を起こした人は確かに罰せられるべきですが彼らにも人権があります。罪を償い社会に戻る環境作りは大切なことだと思えます。責任を持ってお役に立てるよう頑張る所存です。

三年前に長年勤めた職場を退職し、これからは、好きな趣味をやりながらゆつくり過ごしたいと思っております。尊敬する方からの推薦があり、この度保護司を拜命致しました。
これまで保護司とは、テレビドラマで正義感のあるおじさんがなるものだと言うイメージしかなく、女性の保護司も居るのも知らないといった具合でした。
研修で先輩保護司の方々のお話を聞くにつれ、本当に私で大丈夫か心配になりました。
先輩からは、今までの経験を活かし、貴方らしく焦らず、相手の話に耳を傾け、一歩ずつ進んで行けば良いのですよとアドバイスを頂き前向きになれました。これから研修等積極的に参加させて頂き、保護司として相

手の気持ちに寄り添い、信頼される保護司を目指し頑張ってくださいと思います。

保護司候補者 推薦希望地域

保護司ご推薦にあたって、特に補充したい地域です。

<p>【第1分会】</p> <p>浜館 自由ヶ丘 戸山 駒込</p>	<p>【第2分会】</p> <p>第二間屋町 勝田 松原 桂木 浜田 横内 妙見</p>	<p>【第3分会】</p> <p>旭町 青葉 横内 北金沢 富田 石江 久須志</p>	<p>【第4分会】</p> <p>浪館前田 千富町 外ヶ浜町 蟹田 蓬田村 女鹿沢</p>	<p>【第5分会】</p> <p>下十川 増館</p>
--	--	---	---	---------------------------------



市役所駅前庁舎(アウガ)前と青森ねぶたでの啓発活動!

第69回社会を明るくする運動 「街頭広報活動」



【アウガ前】 7月7日、「社会を明るくする運動」地区推進委員長(小野寺青森市長 代理 福井福祉次長)、天内青森地区保護司会長・阿部地域活動部会長、地域活動部会員、企画調整保護司が参加し、「黄色い羽根」「社明広報グッズ」を配布。1時間程の活動でした。



【青森ねぶた祭り】 8月6日、青森市PTA連合会ねぶたの協力を得て、県保護司会連合会、青森保護観察所、青森地区保護司会が参加、社明のぼりを持って、うちわ・広報用チラシを沿道の観客に配布しました。

(あとがき)

前広報部長伊藤尚三氏がこの度退職されました。十三年間の長きに亘つての編集長職、誠にお疲れ様でございました。「普通はそれ言いくいだらう」という様な事も、例の飄々とした口調でサラリと切り込む硬派な編集長であったと思っております。広報部の慰労会は大いに盛り上がりました。

七月に発売されて九月現在で七版を重ねている「ケーキの切れない非行少年たち」(新潮新書)という本があります。著者は宮口幸治さん。児童精神科医で法務省矯正局職員として医療少年院に勤務された方です。



タイトルに惹かれて読んでみたのですが、彼の担当した多くの非行少年たちがケーキを三等分することが出来ないのだそうです。

「性格が問題だ」というレッテルを貼られ続けている。黒板をノートに写せない、じつとしていられない理由が解き明かされます。文中の一文「子供の心に扉があるとすれば、その取手は内側にしか付いていない」。

既にお読みになった方も沢山おられると思いますが、なかなか気付きの多い本でしたので参考までにご紹介を。今号から新メンバーでの編集になりますので、乞うご期待。・・あまり期待されても困りますが。

【広報部員 七戸 俊逸】